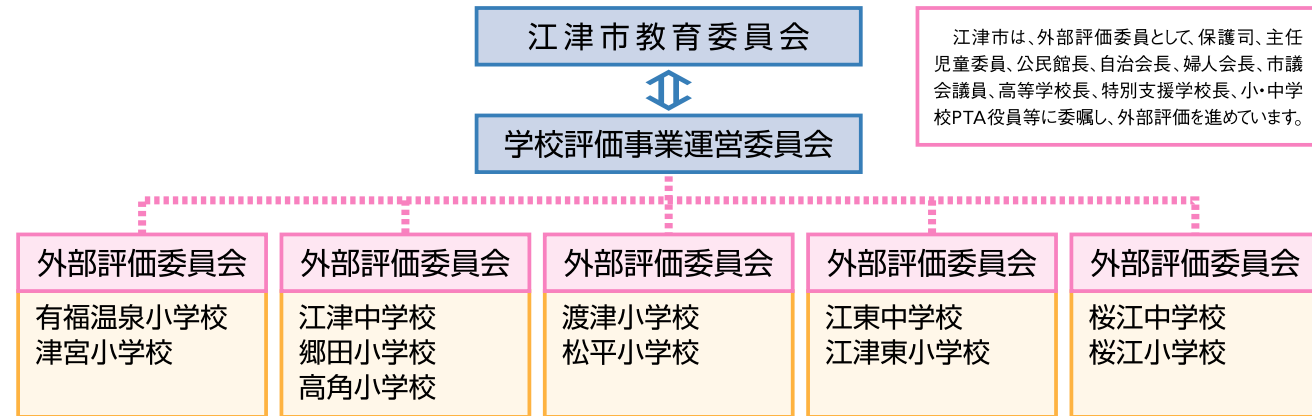


# 江津市の取組(江津市11小・中学校の取組)

江津市は、文部科学省の「義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」の地域指定(平成18、19年度)を受け、協力校(11校)を5グループに分け、研究実践に取り組んでいます。

## 1 実施体制



## 2 取組の概要

江津市の主な実践内容は次のとおりです。

### (1) 協力校における自己評価の実施

- ①ガイドラインに示された項目や指標等を踏まえ、具体的な目標を設定する。
- ②児童生徒、保護者、地域住民から寄せられたアンケートや児童生徒による授業評価の結果を活用し、自己評価を行う。
- ③上記に基づいた自己評価書を作成し、外部評価委員会に対し必要な事項を説明する。

### (2) 外部評価委員会による検証

各グループに設置された外部評価委員会は、学校訪問や教職員、児童生徒、保護者から意見聴取を行い、各校の自己評価が適切に行われたかどうか、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうかを検証する。

### (3) 外部評価結果の公表

各校は自己評価及び外部評価委員会からの外部評価の結果を説明・公表することにより、保護者・地域住民から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得る。

### (4) 教育委員会の取組と学校への支援

教育委員会は、学校評価事業運営委員会を設置し、協力校及び外部評価委員会に対し、指導・助言等を行う。また、学校評価結果に応じて学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講ずる。



## 3 成果と改善策

開かれた学校づくりに寄与した!

教職員が協働して成果・評価指標を作成することにより、共通理解が図られ、具体的な目安をもって取り組めるようになった。

教職員と保護者・地域の方々との意識の違いが発見でき、課題が浮き彫りになった。

外部評価委員に学校の内情や努力点、課題等を理解してもらうことで、地域の方々から学校の方針を広めてもらえる基盤ができた。

学校運営について多角的・多面的に評価し、保護者や地域の方々に対して、説明・公表するシステムづくりができた。

共通理解・情報提供に努める!

評価手順の段階(企画・実施・評価・点検)において、協議の場を設定し、評価指標・基準、改善点等の精度を高めていく。

教職員間で、「評価」(PDCAサイクル)の有効性についての認識を高め、より一層の主体的な参画を図っていく。

外部評価委員と教職員との意見交換の場を設定したり、情報提供を積極的に行ったりして、より正確な評価が得られるようにする。

外部評価シートの言葉は、専門用語を避け、理解しやすい言葉にして提示する。学校評価の公表についても分かりやすいものにしていく。

